①
八千代座に
命を吹き込め!
町づくりに燃える八千代座桟敷会物語
作画 西島淳之介
②
昭和六十三年三月
永六輔氏公演
「わたしが歩き見て来た町づくり」
僕は今までいろんな町づくりをこの足で歩き見てきました
ここ山鹿でも、この八千代座を復興しようとのことですが
劇場は実際に使われ続けないと本当の復興とは言えないと思うんですね僕は
つまり保存だけじゃない真の復興……
それこそがみなさん方若い人たちの役目なんですよ
うん…たしかにその通りだ
そうだよ
劇場は実際に使えばこそ町づくりの核にも出来るんだ!
③
昭和六十三年十二月国の重要文化財に指定され保存と復興が進む山鹿市の八千代座
ここを核とし町づくりを進めるボランティア団体に「山鹿八千代座桟敷会」がある
会員証
現在世話人三十名会員五百名
代表世話人古閑泰隆さん
本業はクワの農さんです
往年の賑わいも今は昔
八千代座は昭和五十五年山鹿市に寄付された
明治四十四年建築
傷むに任せた姿に昭和六十一年老人会などが中心になり
「八千代座復興期成会」を結成
老人会による「かわら一枚運動」が始まった
かわら一枚分の寄付を…
やがて復興の気運は高まり個人はもちろん企業や各団体からの寄付も集まるようになり
文化庁の視察
山鹿市挙げての保存運動へと発展して行った……
永六輔さんの話には感動したばい
どうだろう八千代座での芸能祭を本気でやってみたら
そらよか賛成!
賛成!!
④
——と盛りあがったものの、いざ劇場使用に向けて走り出したらさまざまな難関が待ち受けていた
出演交渉に始まりチラシ・チケット作成!使用許可申請……
そして観客の確保
おい、チケットがまだ四分の一しか売れとらんぞ!
あと10日しかないのに…
新聞社や放送局に行ってみよう
メディアを通じて広めようぞ!
夢を持って行動すれば必ず実現すると言うことに——
私達はあらためて気付きました
百の言葉より一つの行動
やった……
疲れもふきとぶばい!
こんなにたくさんの方々に来てもらえるなんて

⑤
平成二年八月それまで個々で活動していた団体が一つになって「山鹿八千代座桟敷会」を発足しその記念公演が催された
永六輔・マルセ太郎
この八千代座を文化の薫る山鹿市の象徴とすべく
市民の手作りの会として桟敷会を運営発展させて行きましょう!
会長に選ばれた古閑さん
⑥
「八千代座を核とした町づくりをしたい」
桟敷会発足はその思いの結晶だったのだ
この人はどうだろう
うむ
これを皮切りに桟敷会は次々と企画を立て
公演を行なった
照明もない舞台ですがなにとぞ公演を…
第3回桟敷会公演 5月25日
山鹿八千代座 芝居まつり
坂東玉三郎舞踊公演
そして他団体の公演も相まって八千代座は活用される重要文化財となって行ったのである
※平成五年から玉三郎実行委員会に桟敷会も参加
オラ
パチパチパチパチ
盛りあがる会場
この日は全員和服姿でした
⑦
もちろんすべてが成功とは限らず
華やかな舞台の裏には厳しい現実も待っている
うーん…こりゃ大赤字だな
ひえっ
赤字の時は世話人が出し合おうばい!
バサ バサ
企画、サービス、安全はもちろん収支までプロ顔負けの気概がそこにある——
八千代座は旧豊前街道に位置しています
道とともに賑わいそしてさびれた劇場でした
しかし私たちは今この貴重な先人の遺産に目覚めました
真の文化とは何かそしてこの通りはもちろん町や市の活性化にこれから何が必要かと言うことに!
⑧
人と人がふれあえる場すべてはそこから出発して行くのです
この十一月には「全国芝居小屋サミット」も開催される予定だ
「八千代座」——その存在はもはや山鹿のみにとどまらず日本文化の核となっていくのかもしれない——